

- 万博開催期間中に、来場者の円滑な輸送を確保するとともに、市民生活や経済活動への影響を最小限に留めることを念頭に、日々の交通状況のモニタリング・分析を行いながら、機動的に追加的対策を実施
- 道路異常時（事故等）の対応として、万博会場周辺及びシャトルバスアクセスルート（高速道路除く）や高速道路等の代替ルートについて巡視を強化し、異常時に迅速な対応を実施
- 市長をトップとした「大阪市道路交通円滑化対策会議」を設置し、「来場者輸送情報センター」と緊密に連携し、交通情報を収集・共有のうえ、必要な対策を実施

1）万博会場周辺の道路交通のモニタリング・分析



① AIカメラ等によるモニタリング

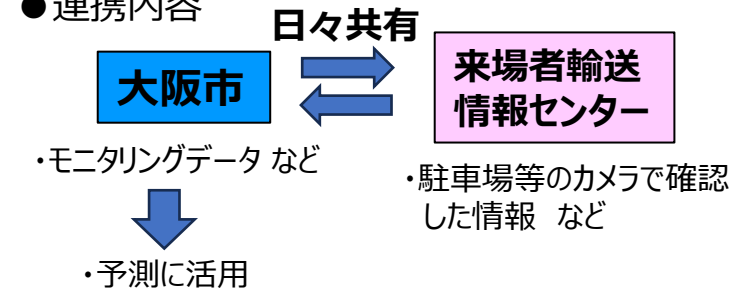
- AIカメラ等により、各ルートの主要ポイントの交通量をモニタリング

② 各車両の日々の増減傾向の分析

- 物流車両、IR工事車両、一般交通の台数実績や推計値から、車両ごとの増減傾向を把握

※ ライブカメラで主要交差点の交通状況を常時把握

●連携内容



2）追加的対策の手法

①追加的対策A（各事業の工夫により、交通量の状況に関わらず、予め期間を決めて実施する対策）

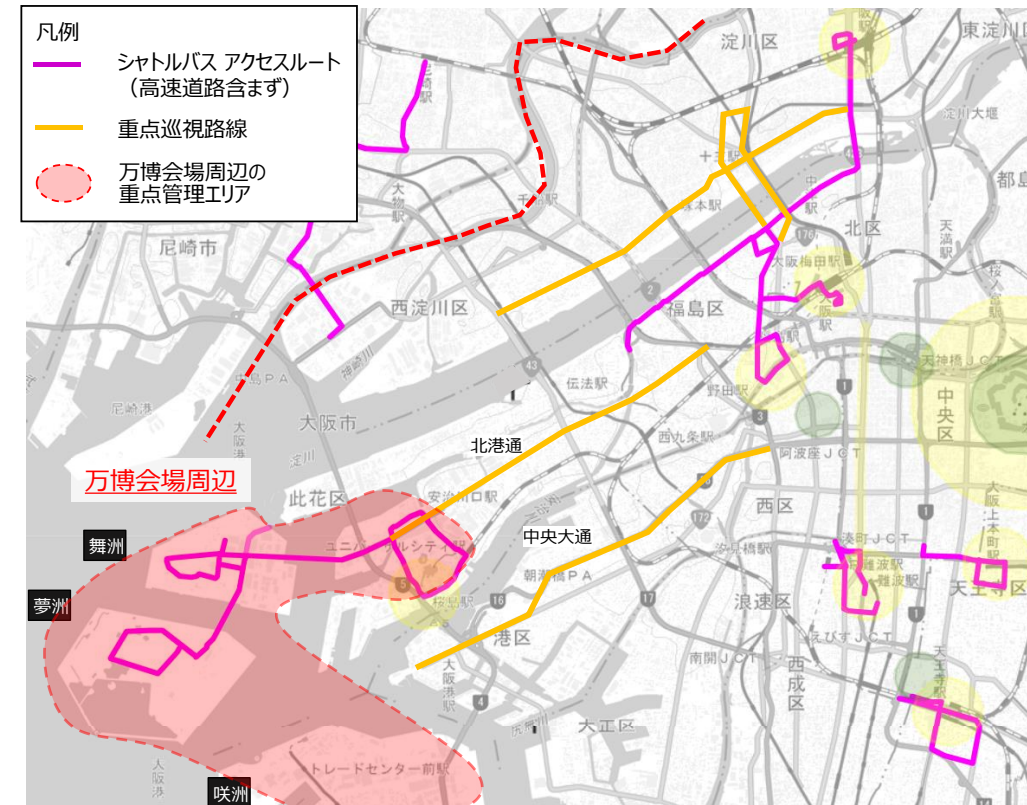
対象車両	対策メニュー	内容	実施期間（案）
IR工事車両	休工日の追加	万博来場者が特に多く見込まれる期間について、IR関連工事の休工を増やすなど今後調整 [IR工事車両台数を削減]	開幕・GW・お盆・閉幕付近
一般交通	舞洲工場の搬入抑制	ごみ収集車両に対して、混雑時間帯に他の工場に搬入するなど、通行台数を抑制 [12～36台/hの削減]	全期間

②追加的対策B（交通量予測の結果、交通容量を超過する見込みとなった場合に、機動的に実施する対策）

対象	対策メニュー	内容
物流車両	ターミナルゲートの時間延長	時間外にゲートオープンし、物流車両の来場台数を平準化（開幕から数週間実施し、効果把握を行う予定）
	空コンテナシフト	空コンテナの返却場所を夢洲から咲洲等の一部変更 [150台/日削減を想定]
IR工事車両	通行ルート・時間帯の変更	容量を超過する見込みのルート・時間帯において、IR工事車両の通行ルート・時間帯を変更
一般交通	働きかけTDM	・更なる協力のお願いについてTDMパートナー企業等にメルマガ配信や情報提供 ・追加的な情報を府市のHP等に掲載

※ 追加的対策のメニュー及び内容については、万博開幕以降も効果的な手法を継続的にブラッシュアップ

3）道路の異常時（事故等による通行障害など）の対応



- 万博会場周辺の重点管理エリア、シャトルバスアクセスルート（高速道路含まず）や重点巡視路線について、巡視を強化し、異常時に迅速な対応を実施

- 事故などの緊急時対応として、様々なケースを想定して、対応手順、情報の共有方法について関係者と協議、策定中

※ 重点巡視路線については、今後の関係先との調整により変更する可能性がある

4）大阪市道路交通円滑化対策会議の設置

- 会議の設置期間は、令和7年1月～10月まで

